

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



October

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

October 2022 vol.102

◆伊賀上野城

所在地：三重県伊賀市上野丸之内

交通：伊賀鉄道伊賀線「上野市」駅 北約 500m

嘉永7（1854）年6月15日、伊賀北部を震源とするマグニチュード7超の地震が発生しました。安政伊賀上野地震と呼ばれるこの地震は、活断層により引き起こされた内陸直下型の地震で、震源に近い伊賀上野を中心に大きな被害が発生しました。被害は桑名・四日市・亀山・津など広範囲に及び、家屋の倒壊は6,000棟近く、死者は1,300名に上ったとされています。伊賀国の被害は特に甚大で、家屋の倒壊は2,000棟を超え、600名余りが命を落としました。当時の人たちが残した手紙には、「一面に家が倒れた」とか、「即死怪我人数知れず」といった状況が記され、地震の前には「山なり」や「大砲のような音」と表現される鳴動が聞こえた、との記録も残されています。

安政伊賀上野地震では、伊賀国支配の拠点とされた伊賀上野城も大きな被害を受けました。伊賀上野城は、天正13（1585）年に豊臣秀吉の命を受けた筒井定次が、大坂を守る目的で伊賀の中心部の高台に築いた城で、高台の頂上を本丸とし、東寄りに三層の天守閣が築造されました。慶長13（1608）年には、徳川家康が信の厚い築城の名手・藤堂高虎に命じ、その目的を変え、大坂・豊臣方との決戦に備えた城に作り替えさせました。このときに、本丸は西に拡張され、高石垣を築き、堀を巡らせて大坂方への備えとしています。高虎の築いたこの高石垣は、大阪城と日本一、二を競う高さ30mにも及ぶものです。



伊賀上野城の石垣



安政伊賀上野地震の伊賀上野城の被害は『伊州御城下破崖損所絵図』に詳細に書き残されています。当時は、城を修理するために幕府の許可を得る必要があり、絵図は、城の修理の許可を願い出るため、地震発生から数か月後に、当時伊賀国を治めていた藤堂藩が、津から絵師を派遣して調査し、描かせたものです。

絵図によれば、伊賀上野城では、東西2か所の大手門、櫓など主要な建築物のほとんどが倒壊または大破となったほか、城内の侍屋敷の倒壊率は70%に達するなど、甚大な被害が発生しました。また、石垣、土居が各所で破損し、がけ崩れや地滑り、液状化などの地盤災害も随所で発生したとされています。一方、高虎が築いた高石垣は、大きな被害を受けた記録は残っておらず、崩壊することなく築城当時の姿が維持されています。

伊賀上野城から東へ1kmほどの「くれは水辺公園」には、地震による犠牲者を供養するために町人有志によって建てられた法華経塔があります。塔は近くを流れる服部川の河川敷に一周忌法要に建てられたもので、のちに現在の場所に移転しました。高さ5.7mに及ぶ慰霊塔の大きさは、各地に残る慰霊碑の中でも珍しく、犠牲になった方々への慰霊の気持ちを表しているようです。



法華経塔



災と Seeing (3) 伊賀上野地震

(http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_03.html)

もぜひ併せてご覧ください。

◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●吉田城 (vol.75,2020.7)

所在地：豊橋市今橋町

交通：豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」停北200m

吉田城は、永正2（1505）年に、駿河の今川成親が牧野古白に命じて築城させた城で、江戸時代には、重要な防衛拠点の1つとなります。現在は、三の丸内部が豊橋公園として整備され、本丸には、池田輝政が構築した石垣の上に建てられた三重櫓「鉄櫓」が模擬再建されています。

吉田城は築城以来、幾度となく地震を経験していますが、特に被害が大きかったのは宝永4（1707）年の宝永地震です。宝永地震の被害の記録は、城の修復を願い出るために被害箇所を書き上げた『御城御破損所御伺絵図』に、詳細に残されています。絵図によれば、吉田城では、本丸御殿、二の丸御殿は残らず大破、櫓や楼門など、その他の建物群も大破し、蔵や長屋が置かれていた三の丸でも、多くの建

物が大破となるなど、壊滅的な被害を受けています。当時、天守としての位置づけをもたされていた本丸の鉄櫓も、「戌亥の方へ傾き大破」との記載があります。

また、嘉永7（1854）年の安政地震についても『三河国吉田城地震之節破損所之覚』に被害の記録が残されています。絵図によれば、石垣、櫓、堀などに被害が発生しており、本丸の鉄櫓は「此櫓半潰」の被害となっています。

内閣府がまとめた『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』の1707宝永地震「第5章 城郭被害図にみる宝永地震」には、宝永地震における全国の城郭の被害がまとめられており、修復の手続きについての考察があります。また、吉田城の宝永地震による被害と修復願絵図についての解説もあります。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.75 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★上野天神祭

上野天神祭は、藤堂氏が藩主の時代に、豊作への感謝・疫病退散の祈願から始まった400年余り続く伝統行事です。平成28（2016）年には、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録されました。

本祭の巡行では、上野天神宮の2基の神輿の供奉行列として、鬼行列と楼車の行列が続きます。百数十体もの鬼が練り歩く鬼行列は、神輿の渡御の露払いの役割を果たします。中でも「役行者」の面は、初代藩主・藤堂高虎が自身の眼病平癒の祈禱の返礼に寄進したものとされています。



上野天神祭 HP より

10月25日までの直近の日曜日を中心として行われる祭礼行事は、秋の伊賀上野の風物詩となっています。（2022年は10月21日が宵々山、22日が宵山、23日が神幸祭（本祭の巡行）です。）

～鉄道で巡る～

伊賀鉄道伊賀線は、JR関西本線の接続する伊賀上野駅から近鉄大阪線の接続する伊賀神戸駅までを結ぶ16.6kmの路線です。



伊賀鉄道株式会社 HP より

全線が伊賀市内を走り、忍者のまちにちなみ、銀河鉄道999の松本零士氏がデザインした忍者列車が運行しています。

ラッピングのイラストのほか、手裏剣柄の車内灯、忍者が見え隠れする扉など、乗客の目を楽しませてくれます。

●ブレイクタイム●

♪大村神社と要石

茨城県鹿嶋市の鹿島神宮と千葉県香取市の香取神宮には、それぞれ大鯰の頭と尾を押さえる要石があります。伊賀市の大村神社は、鹿島神宮の武甕槌命、香取神宮の経津主命が、奈良の春日大社に遷幸した際に休息を取った場所とされ、要石が奉鎮されています。

大村神社では、防災の日の9月1日に地震除災祈願大祭が斎行され、秋祭りでは大なまずが街中に引き出されます。また、鯰の絵馬やかわいい鯰のお守りをいただくことができます。



大村神社の秋祭り大なまず
大村神社公式 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022年10月）